

副会長会の報告

期日 平成24年2月21日(火)

会場 全国連合退職校長会 事務局 会議室

出席者

- 北海道 戸張 敦雄 会長
 - 東北 西 寛 副会長
 - 東北 杉山 紘二副会長
 - 関東甲信越 岩佐 喜一副会長
 - 東京 片岡 敦子副会長
 - 東海北陸 小西 優副会長
 - 中国 徳永 耕一副会長
 - 四国 栗田 正己副会長
 - 九州 久手堅憲仁副会長
- 他に、各部長・各委員長、総務部員、事務局長及び事務局次長計11名が出席
- ※近畿地区の西川芳徳副会長は体調不良のため欠席。
- ◇会議の概要
- 司会 総務部長 入子 祐三
- 一 開会のことば 副会長 久手堅憲仁

二 戸張会長挨拶

今年の冬は寒い冬でした。日本海側の各地は非常に大雪に見舞われて、大変なご苦勞をされていることと、心からお見舞い申しあげます。

今日の副会長会は、主として来年度の「目標」「宣言・決議」についてご協議いただき、さらに各地区からお持ちいただいた資料を基にして協議いただきましたと思います。

資料について説明させていただきました。この資料は、今から25年くらい前のいわゆる臨教審第四次答申です。なぜこれを今持ち出したかといえますと、教育委員会の活性化という内容について当時の臨教審の委員が、答申しております。今の教育委員会のあり方等について、大阪市などを中心にして議論されておりますが、こういうような動きが今から25年前にもあったのだということをご承知おきたい



だき、それらを基にして現在の状況についてお考え願いたいと考えたからであります。

もう一つは、最近、東京大学が中心になって秋季入学のことが話題になっております。これにつきましても、同じく臨教審では、入学時期の検討をしております。この内容もお読みいただきますと、今から25年前にこのような答申を出していたのだということに参考にならうかと思えます。このように原点に立つてお考えを深められたと考

え、資料として提供いたしました。次に、新聞報道によりますと、東大の平田教授が、南関東にはM7以上の地震が4年以内に発生する確率は70%と報告しております。その他の研究者もほぼ同様の報告をしております。一般的に南関東に大きな地震がいつ起こっても不思議ではないという状況にあると考えております。この時に当たって、全連退

会議室での会議中の事故等への対応について、手を打っておく必要があると考えていることを申しあげて、はじめの挨拶いたします。

三 報告

- 1 平成24年度文部科学省関係予算案の閣議決定について
 - 2 「日本の教育・全連退の事業・活動に関する調査結果」について
 - 3 平成23年度「年間活動・研究報告」の編集について
 - 4 都道府県退職校長会概要(日本)について
 - 5 各都道府県退職校長会の会員組織の実態調査(年代別会員数調査)について
 - 6 教育図書出版について (P11参照)
 - 7 平成23年度の全連退の活動について
 - 8 平成23年度中間決算報告
 - 9 平成24年度総会等主な行事予定について
 - 10 各部・委員会活動について
- 各部長・委員長より報告
- 四 協議
- 1 平成24年度全連退の「目標」

「宣言・決議」(案)について

○部長会で検討された案が、総務部より提案された。副会長からいくつかの有意義な意見が出された。これを基に修正した文案を、各都道府県に送付して意見を求める。

2 各地区連絡協議会等の活動を振り返って

北海道地区

- 組織などさまざまなスリム化をして、大改革をした。
- 来年度も改善内容の完全実施に向け努力する。
- 支部代表者会で教育振興に関する活動内容を集約し、交流を通して活動の活性化がみられた。

東北地区

- 全連退はじめ各県の退職校長会からご支援をいただいたことに感謝申し上げます。
- 全連退に大震災に関する要望を出したが、これからの私たちの進む指針を与えていただいたことに感謝する。
- 各県の活動状況については、「東北地区情報」(第4号)を

見てほしい。

関東甲信越地区

- 主な活動は、現職校長との懇談会の開催、地域との連携による教育支援活動の実践、魅力ある多様な事業の展開、広報活動の充実などである。
- 年金制度に不安を持つ会員が多い。全連退としてさらに充実した要請活動をしてほしい。
- 高齢会員、長期療養会員の会費免除について検討を始めてほしい。

東京地区

- 都教委から事業委託をされている各区市における外部人材活用状況に関する、調査報告をまとめた。
- アドバイザー委員会を組織している。

東海北陸地区

- 現職教員研修会を実施して、それに関わるテキストを発行した。
- 調査などを電子メールで扱えるようにしてほしい。
- 組織の活性化については、組



織活性化委員会を設けている。女性の役員を増員する。研修旅行をして連帯感を高める努力をしている県がある。

- 退職校長会としてなすべき事業や活動として、学校教育支援、会報の充実を図っている。
- 88歳以上の会員の会費を免除してほしい。

中国地区

- 教科を中心に学校支援に取り組んでいる。(広島)
- 教育実践遺産事業として、学校周年記念誌や郷土読本の蒐集を行っている。これは、先輩校長が営々として築いてきた教育理念・実践に基づいた記録である。(鳥取)

● 学校現場から応援の要請があった時に、すぐに応援できる態勢を整えていく。(広島)

四国地区

- 会員の減少には非常な危機感を持っている。
- 他の組織(小学校・中学校)へ呼びかけて、組織を拡大していくことを考えている。
- 組織の存在感が問題なので、意義のある組織をPRしていく。
- 四国地区として「地区会報」を2年に1回発行する。

九州地区

- 各県とも緻密な年間計画を作成して、実施している。
- 魅力ある退職校長会を作ることが大きな課題である。
- 魅力ある校長会とは、品のある、風格のある、存在感のある活動をする組織である。
- 意識が多様化して、組織離れが進んでいる。意識の高揚、意識をどうまとめるかが課題である。

五、閉会のことば

副会長 徳永 耕一

全連退

新刊図書の新刊

この度、全連退では、全国都道府県退職校長会の全面的なご協力を得て第5回目の教育図書を刊行いたしました。

会員の皆様から現職の先生方にお勧め頂いたり、会員の皆様から現職の先生方への激励本として贈呈などして頂ければ幸甚に存じます。

書名

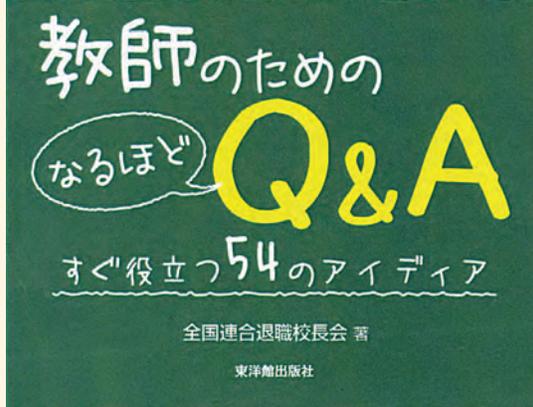
「教師のための
なるほどQ&A
すぐ役立つ54のアイデア」

内容

「こどもの心をとらえる授業の技」「目くぼり、気くぼり、心くぼりの生活指導」「活気と笑顔あふれる学級づくり」「若手とベテランによる教師の輪」「保護者から信頼を得る教育活動」「地域に愛される学校づくり」の6章からなり、各章に9つの「Q」（質問）を設け、合計54の「Q&A」で構成しています。本書を通して、教師として

の生き方、授業の進め方、学級経営の工夫、児童・生徒理解や人間関係の作り方、若手教師の育て方、保護者対応や学級経営等さまざまな課題について実践上の参考として頂くことを期待しています。

躍してこられた方ばかりです。長年の教育実践の中で、人知れず様々な「自分ならではの経験と知恵」をもっておられます。実践に裏付けられたその経験と知恵を、今、課題に直面し、日々悩みながら学校



執筆者の特色

本書の執筆者（本会会員）の特色は全都道府県に及んでいることです。そして、執筆者は各都道府県退職校長会のご推薦による方々で、その分野のエキスパートとして活

で尽力されている現職の先生方のために提供していただきました。

「Q」に対し、経験豊かな先輩として、その解決策なり対

応策を「A」で答えていただいています。

他の類似図書と一味違います。さすが何十年も学校で実践を積んだ先輩による、急所を押さえた「A」となっており、幅広く現職の先生方（特に若手と若手を指導する中堅・幹部）の明日からの実践にすぐ役立つ「座右の書」となってくれることを信じております。

出版は平成24年1月、
全国の書店で

編著者 全国連合退職校長会
A5判・176頁・横書き

出版社 (株) 東洋館出版社
(東京都文京区 文科学省の「初等教育資料」も発行)

書店での定価
(税込) 1995円

5冊以上まとめて、ハガキで全連退事務局へ申し込めると送料込みで、
1冊 1800円
事業委員会

共済年金受給者

会議に出席して

福利厚生部長 前田 徹

平成23年12月19日「共済年金受給者団体全国協議会幹事会」が日本退職公務員連盟（日公連）会議室で開催された。下条進一郎会長の挨拶と自己紹介の後、鈴木専門員の「社会保障と税の一体改革の行方とその対策」の講話の後、藤田社会保障対策委員長から今年度の「要望事項」について説明があった。

鈴木専門員

「社会保障と税の一体改革の動きで年金に関するもの」について話す。

1、平成23年12月5日に厚

生労働省がまとめて発表した社会保障改革案

(1) 基礎年金国庫負担1/2を恒久化

平成21年度から基礎年金の国庫負担率は1/3から1/2となったが「埋蔵金」等による特別予算でまかなわれた。これを通常予算に恒久化することを消費税引き上げ年度（平成26年度か？）から実施する。しかし、平成24年度から引き上げ年度までは引き上げで確保される財源を年金財源に活用する。

(2) 高所得者の年金給付の見直し

年収1000万円以上の者は国庫負担分を減額し、1500万円以上の者は基礎年金の国庫負担分の全額をカットする案が検討されている。民主党のマニフェストに示された「全ての人に7万円」という最低保障機能の強化と併せて行う。具体的内容は引き続き検討する。

(3) 物価スライド特例分の解消

物価上昇の折は年金を増額しデフレの時は減額することになっているが、本年も特例措置として減額していない。この解消を平成24年度から実施するため通常国会に提案する。

(4) 被用者年金一元化

平成19年法案をベースに一元化の具体的内容を引き続き検討する。平成24年の通常国会に法案を提出できるよう努力。

2、平成23年12月16日政

府・民主党の「社会保障と税の一体化改革調査会（細川律夫会長）で決めた年金分野の改正案

(1) 国庫負担金基礎年金1/2の恒久化

必要な法案を平成24年の通常国会に提出し、消費税の引き上げ年度（平成26年度？）から恒久化する。

(2) 高所得者の年金給付の見直し

最低保障機能の強化と併せて実施する。具体的内容は引

き続き検討する。来年の通常国会へ法案が提出できるよう努力する。

(3) 被用者年金の一元化

来年の通常国会へ法案提出できるよう引き続き検討する。

(4) マクロ経済スライドの検討

デフレ下の年金の適用は減額を中止する特例水準を解消する状況をふまえながら引き続き検討する。

(5) その他

① 最低保障機能の強化

② 第3号被保険者制度の見直し

③ 在職老齢年金の見直し

④ 支給開始年齢の引き上げ等も検討されている。

(6) 今後の見直し

① 消費税増税の具体的税率や引き上げ年度については案を年内（平成23年）にまとめる。

② 与野党協議を経て大綱を作成し、来年（平成24年）3月に消費税法案を国会に提出する。

地方の会報紙より

帰宅難民の二日間

から思うこと

長野県退職校長会

会長 高橋 基

(長野県退職校長会会報 第105号)

この度の東日本大震災及び県北部地震により、災害に遭われた方々に、心からお見舞いを申し上げ、被災地の一日も早い復興を、全会員共々にご祈念申し上げます。

東日本大震災が起こった3月11日、私は全国連合退職校長会の常任理事会があり、東京五反田の事務局にいた。

会議中、震度五強の地震にあい、机にしがみつくような激しい揺れに見舞われた。会はそのくさに終了し、帰宅することとなったが、それからが大変な経験することになった。列車は全て動かない。五反田駅でひたすら待ったが動く気配なし。東京で一泊をと腹を決め、駅周辺のホテル・旅

館等数十軒当たったが全て満員。その間家へ携帯を入れてみるがこれも駄目。野宿を覚悟。それにはまず腹ごしらえと、食べられる所を探すが、レストラン・食堂の入口はこ

れまた長蛇の列。その中で比較的並びの少ないそば屋の列に加わる。やっと自分の番になった頃は、メニューのいろいろは品切れ。かけそばをすすって、夕食は終わり。

駅に戻り、駅員に野宿の場所を尋ねると、「東京都には緊急避難所がいくつもある。ここから近いところでは清泉女子大学」と教えてくれる。夜道、尋ね尋ね、そして道案内も受け大学にたどり着く。既に10時を過ぎている。ひと晩お世話になる。

翌日、9時過ぎに地下鉄の一部分が動き出し、さらに東海道線や埼京線の部分運転も始まった。少しずつ乗り継いで、夕方には大宮まで来たが、その先は全く不明。やむなく息子に大宮まで迎えに来てもらい、なんとかその日のうちに帰宅できたという、いわゆ

る帰宅難民を経験した。この体験を通して実感したこと。

一つは、先が読めない時の不安は、苦痛にも似た緊張感を伴うこと。これが何か月も続くとなると、その苦しみはいかばかりか、想像をはるかに超える苦痛であろう。

二つは、その不安の中で、少しでも安定させてくれるのは、話し相手がいるということ。私の隣は、清水からこの日就職試験で上京中だったという青年。ひと晩語り明かした。三つは、日本人の忍耐強さ。バス・タクシー乗場、レストラン、公衆電話等、どこも長蛇の列。不安・ストレスをかかえながらも、整然と並び、秩序を守っている。

四つは、日本人のやさしさ。帰宅難民を受け入れてくれた職員の間かさ、道案内で一緒に歩いてくれた青年、その他、たくさん親切に出会った。帰宅して県北部地震を知った。被害の大きさに唖然とする。学校、会員の被害の状況も入ってくる。「教育現場の

応援団」を願っている本会として看過できない。全支会長さんの積極的賛同を得て、とりあえずは地元栄村へ、運営積立金から50万円抛出してお届けした。

地元を根をはって

大分大南 廣瀬 孝三

(大分県退職校長会報第139号)

大分市南部に位置する大南地区は退職教員が地域活動の各種役員を引き受ける風潮があり、現在も自治委員、社協、青少協、ボランティア等として活躍しております。

会の活動として相互の親睦と福祉を主としていますが、その中の伝統行事「小学生とのグランドゴルフ大会」を紹介いたします。

12月の冬晴れの日、40名もの参加がありました。初めてステイックを手にする子どもがほとんどで、会員が丁寧にもう一度優しく声をかけていくと、みるみる上達していききました。終了後の表彰式では一位の

会員が自分たちの小学校の運動会で踊る「戸次音頭」の作曲者であることを伝えると子どもたちから驚嘆の声があげられました。

また会の行事として1月末には地区内の「現職と退職校長の教育情報交換会」を持ちました。これは二学期に地区内の学校で研究発表会（戸次小学校―社会科、竹中小学校―小中一貫教育）があり、それぞれの校長より、ふるさとを愛する子どもづくりや、小規模学校の教育の現状を聞きました。会員よりは地元として今以上に地域の学校を支援していくことが申し合わされました。

「赤ちゃん訪問」での
子育て支援にやりがい

八女市支会 長野 史子

（福岡県退職小学校長会会報第97号）

退職後、すぐに南教育事務所
所の児童生徒指導相談員として
3年間、自立生活支援施設
（元母子寮）「ひまわり園」の

園長として2年間勤務いたしました。現在は主任児童委員として7年目になります。

今、主任児童委員活動の中でやりがいを感じている「赤ちゃん訪問」について述べます。主任児童委員に指名されて2年間は、自分は本当に子育て支援活動をしていると言えるのだろうかかと疑問を感じておりました。

こんな気持ちでいた頃、全国大会に出席した元副部長から新生児訪問活動の話が聞きました。全国で児童虐待件数が増加していること・児童虐待により死亡したゼロ歳児が最多であり、0〜4か月の乳児が約七割にも上る実態（平成16年統計）であること、しかも、虐待者の大半が子育てに悩む実母であること・厚生労働省が平成19年度新規事業として生後4か月までの乳児のいるすべての家庭を訪問する「こんにちは赤ちゃん事業」を始めていること・すでに訪問を実施している市町村が全国に数か所あることも分かりました。

虐待を見つけて支援するということが現実には難しいし、虐待が起こらないような積極的支援が必要と考えていましたので「八女市でもやりましょう」という彼女の呼びかけにすぐに賛同いたしました。

早速、主任児童委員全員で意思統一を図り、福祉課に「新生児おめでとう訪問」の提唱をしました。関係の課と何度も話し合いを重ねた結果、市側も私たちの熱い思いに込められた準備をしてもらえるようになりました。

19年度は、市の提案により、殆どの母子が来る「4か月乳児健診」の場に入って、可愛い赤ちゃんを抱かせてもらいながら子育てについて話し合いました。

20年度からは、希望者だけの家庭を地区担当の児童委員と一緒に訪問をするようになりました。

本年度から、私の課題であった全戸訪問が実現いたしました。

赤ちゃん訪問では次のような支援をしています。

- 主任児童委員の存在を知らせて自己紹介
- 子育て問題について、皆さんの立場で相談にのること
- 八女市にどんな福祉制度や子育てサービスがあるかの紹介
- 必要なサービスがある関係機関とのつなぎ役になること

赤ちゃん訪問を始めて4年目になりますが、核家族化で育児に関する知識や経験が乏しい家庭も少なくなく、私たちの支援で役立っていることも見えてきたように感じます。今では、楽しく「やりがい」のある活動だと思っています。

